

とある少女の愛言葉

～詩～



Kaoru



たまたま貴方と私が出会い

たまたま二人の心が通い合った

自然とお互い愛を育み合って

自然と心を重ねていった

たまたますれ違いが多くなって

自然と会話も少なくなった

自然に貴方からの愛情も感じなくなって

自然と心の距離も空き

たまたま

私だけ

貴方を想い続けているだけのこと

ただ

それだけ

それだけのこと

たったそれだけのことなの



あなたの

あの香水の香りが一瞬した気がした

思わず振り返ったけれど

貴方じゃなかった



貴方のあの大きな手が

世界で一番

暖かった



『言葉になんかしなくても分かるよ。』

今では

言葉にしても

、分からない、



あなたじゃない人の腕に包まれ

貴方じゃないとダメだと改めて思い知った

そんな

情けない私の心



言えなかった『ありがとう』も

言いたかった『行かないで』も

言わなかった『まだ好き』も

言ってしまった『さよなら』に

私たちの関係をゼロにさせちゃったね



守れなかった約束も

交わされなかった約束も

迎えれなかった記念日も

解いてしまった赤い糸に

『しょうがないね。』の一言で

幕を閉じさせてしまったね



貴方がいないと生きていけない訳じゃない

でも

貴方がいないだけで

こんなにも私の世界は

窮屈で苦しかったのか



〘 貴方がいない ただそれだけで.....。ゝ

そう思うのは

共存としてからだったのか

共有する安心感からだったのか

それとも

ただの 依存、からだったのか

